

令和7年度 東原庫舎西溪校 校内研究報告

1 学校教育目標

「ふるさとに学び、志をもち、共に高め合う西溪っ子」の育成

2 研究主題

学ぶ喜びを感じ、自ら考え、学びをつないでいく児童生徒の育成（2年次）
～ 自ら考え学ぶ授業づくりの工夫 ～

3 主題設定の理由

今日、感染症の拡大や国際情勢の不安定化という予測困難な時代の象徴ともいえるべき事態が生じ、現代は、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代とも言われている。少子化・人口減少、グローバル化の進展、格差の固定化と再生産など、様々な社会課題が存在する中、society5.0を見据え、これからの社会を展望する上で、教育の果たす役割はますます重要となっている。

本校の児童生徒は、全国学力・学習状況調査や佐賀県小中学校学習状況調査において、対県比や全国比で平均に満たない状況が続いており、特に、思考力・判断力・表現力が十分に身に付いていない。また、意識調査においても、「夢や目標をもっている」「家庭学習の時間」「ICT機器の活用」「学習の見直しと次への学習につなげる」「授業で学んだことの活用」等の項目において意識の低さが目立っている。本校は単学級であり、9年間クラス替えがなく、人間関係の固定化がみられる。授業においても、その傾向がみられ、自分の意見に自信がなく、根拠をもって自分の考えを説明したり話し合ったりすることが苦手な児童生徒が多い。

本校の児童生徒が、確かな学力を身に付け「勉強が好き」と学ぶ喜びを感じることができるようにするためには、自分の考えをもち、根拠をもとに伝え合う場を設定することが必要だと考える。どの学年のどの教科においても活用できる学習スタイルを確立することで、児童生徒が安心して学ぶことができ、主体的で対話的で深い学びを実現できると考える。義務教育学校の特長を生かし、9年間の学びを貫く授業づくりについての研究と実践を行うことで、学ぶ喜びを次の学びへとつなぎ、持続可能な社会の創り手となる基礎を育成することができると考え、本主題を設定した。

1年次の研究では、学習スタイル確立のために、授業づくりにおいて、以下の3つの視点を設定して授業を行った。

【視点①】根拠をもとに自分の考えをもつ場を設定した授業づくり

【視点②】めあての達成につながる協働的な学びの場の工夫

【視点③】授業と家庭学習との接続の工夫

これらの視点をもとに9年間の学びを貫く西溪スタイル（資料1）と西溪スタイル授業づくりチェックシート（資料2）を策定し、授業改善を図った。1年次の課題として、考えの根拠があまりないため、各教科で根拠をもとに自分の考えをもてるようにする工夫が必要であると考え、2年次は授業づくりの視点①に重きを置き、研究の重点目標を「根拠をもとに考えをもつ場の工夫」とした。2年間を通して、一定の成果を得ることはできたが、研究主題につながる児童生徒

の主体性の育成にはまだ課題が見られる。改善策として、めあての工夫を行うことで、児童生徒が自分事として学習を捉えることができると考えた。そこで、3年次は研究の重点目標を主体的に学ぶためのめあての工夫とした。

4 研究の目標と計画

【目標】

各学年・各教科を貫く学習スタイルを基に、めあての達成に向けて自分の考えを協働的な学習の場で表現することで、次への学びの意欲を高め、学びを次のステージへつないでいこうとする児童生徒を育成する。

【計画：3か年】

令和6年度（1年次）：9年間の学びを貫く学習スタイルの確立【重点目標：共通理解と徹底】

令和7年度（2年次）：自分の考えをもつ授業づくり【重点目標：根拠をもとに考えをもつ場の工夫】

令和8年度（3年次）：主体的な学びと協働的な学びの場の工夫

【重点目標：主体的に学ぶためのめあての工夫】

5 研究の仮説

- (1) どの学年どの教科にもつながる基礎的汎用的な学習スタイルを確立することで、児童生徒が安心して学ぶことができ、主体的対話的で深い学びにつながり、学力が向上するだろう。（1年次）
- (2) 根拠をもとに自分の考えをもつ場を設定することで、児童生徒の主体性が育まれ、各教科で求められる資質能力が身に付いていくだろう。（2年次）
- (3) 協働して問題を解決しようとする、自分事となるめあてを立てることで、相手意識や自己の学びの認知につながり、児童生徒が学ぶ喜びを感じるようになるだろう。（3年次）

6 研究の内容及び方法

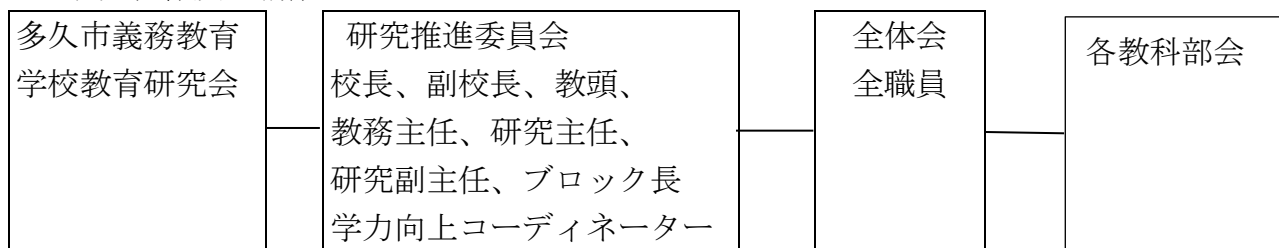
【内容】

- (1) 学びの土台となる学習スタイルの策定（1年次）
 - ・各教科で児童生徒につけたい力を明確にする
 - ・話型、聴型の活用
 - ・協働学習
 - ・家庭学習との接続の工夫
- (2) 根拠をもとに自分の考えをもつ場を設定した授業づくり（2年次）
 - ・各教科における「根拠をもとに自分の考えをもつ」姿
 - ・児童生徒が自ら考え学ぶための課題提示や導入の工夫
 - ・自分の考えもてるようにするための教師の支援
 - ・自分の考えの表現方法（ICT利活用も）
 - ・家庭学習との接続の工夫
- (3) 主体的な学びと協働的な学びの場の工夫（3年次）
 - ・学ぶ意欲を高めるめあての設定
 - ・めあてにつながる家庭学習の工夫
 - ・必然性のある協働的な学び（あくしゅタイム）の充実

【方法】

- (1) 義務教育学校の特徴である、各教科の9か年の系統や前後期職員の交流を指導に生かす。(共通)
- (2) 全国及び佐賀県の学力・学習状況調査の結果を分析し、児童生徒の実態を把握する。(共通)
- (3) 授業づくりの3つの視点をもとに、全ての教科に共通した「児童生徒につけたい力」について、各教科において検討し、共通理解を図り、実行する。(2年次)
- (4) 西溪スタイルを活かし、主体的に学ぶためのめあての工夫を意識した授業を相互に参観したり、授業研究会を行ったりすることで、授業改善を図る。(3年次)

7 研究組織及び構成



【各教科部会】

	算数 数学部	国語部	英語部・理科部	社会部	保健 体育部	実技教科部
低学年 ブロック	喜多 坂元 福田	松尾 田中美	江口 (理)	岩永	田中直 三浦	南里 (図) 末次 (音) 高群 (音)
中学年 ブロック	岩本	坂本◎ 樋口 森下	福岡 (英) 浪瀬 (理)	田中昌 原田	森征◎	古川 (技) ◎
高学年 ブロック	荒木 小川◎		志田 (英) ◎ 中川 (理)	齋藤 森友◎	武村 中島 南	

※各部の部長 (◎) を1名決める

※校長・副校長は、全体への指導助言

8 今年度の研究計画

月日	曜	事項	内容
4月3日	木	第1回研究推進委員会	今年度の研究内容の提案内容 年間計画 等
4月7日	月	第1回全体研究会	研究テーマ、内容、組織の提案 年間の見通し
6月5日	木	第2回研究推進委員会	各教科部会の動きについて
6月12日	水	第2回全体研究会	学校訪問の指導案について 各教科部会（授業者の選定）
6月30日	月	第3回研究推進委員会	授業検討会について
7月18日	金	第3回全体研究会	各教科部会（授業検討会①）
7月25日	金	第4回研究推進委員会	2学期以降の見通しについて
8月1日	金	第4回全体研究会	各教科部会（授業検討会②）
9月29日	水	第5回研究推進委員会	相互参観と実践交流会について
10月8日	水	第5回全体研究会	実践交流会①
12月9日	火	第6回研究推進委員会	相互参観と実践交流会について
12月17日	水	第6回全体研究会	実践交流会②
1月26日	月	第7回研究推進委員会	まとめと来年度の方針について
2月4日	水	第7回全体研究会	年間のまとめ 成果と課題の共通理解 次年度に向けて
3月25日	金	第8回研究推進委員会	次年度に向けて

9 研究の実際

(1) 西溪校学習スタイルの共通理解・共通実践

「9年間の学びを貫く西溪スタイル」として、単元全体、または1単位時間の学習スタイルを作成し、全職員で共通理解を図った。

9年間の学びを貫く西溪スタイル

- 視点①・・・根拠をもとに自分の考えをもつ場を設定した授業づくり
 視点②・・・めあての達成につながる協働的な学びの場の工夫
 視点③・・・授業と家庭学習との接続を工夫する

<単元全体 または 1単位時間で>

学習過程	視点	学習活動（子どもの言葉で）	留意点	
問題把握 問題 課題把握 めあて	視点 ③	・教科書や資料等から本時の課題をつかむ ・課題をもとに、本時のめあてを立てる	・学ぶ意欲を高める課題の設定 ・家庭学習との接続を考える	
見通しをもつ 見通し 内容・方法・学習の場など		・めあての解決のための見通しをもつ ○ 既習事項と結びつけて考える ○ 解決に必要な情報や方法を確認する ○ 手順を確かめる ○ 流れを確かめる など	・考えさせることの明確化 ・課題によって何の見通しが 必要かを考える	
自力解決 根拠を明らかにして表現 考える 考えたことの表現		視点 ①	・見通しを生かして、自分の考えをもつ ・自分の考えを、根拠や理由を示しながら、記述したり、発言したりするなどして表現する(ICTを有効に活用する)	・考えをもたせる方法 ・表現させることの明確化 ・各教科の特性に応じた根拠 ・自分の考えの表現方法(ICT利活用)
協働的な学び あくしゅタイム めあての達成に向けて考えの交流の場 2人で グループで みんなで		視点 ②	・他者の考えと自分の考えの共通点・相違点・よさなどを考えながら聞き、伝え合い、自分の考えに生かす <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">あくしゅタイム一覧表</div> を参照	・目的の明確化 ・必然性のある協働的な学び ・あくしゅタイムの充実(ICT利活用)
学びをまとめ、振り返る まとめ ふりかえり	視点 ③	・協働的な学びの結果を共有し、課題の解決とめあてに対するまとめをする ・本時の学びを振り返る ○ どのように学んだか ○ 何ができるようになったか(自分の変化や成長について) ○ 今後はどうつなげるか(生活や経験、他教科と結び付けて)	・振り返りを生かした家庭学習との接続	

(2) 西溪スタイル授業づくりチェックシートの共有

職員の授業改善の意識を高めるために、授業づくりチェックシートを作成し、共通理解を図り活用した。

西溪スタイル授業づくりチェックシート

		教師 <input type="checkbox"/> 子ども <input type="checkbox"/>	
<p><input type="checkbox"/> 話し方や聞き方のルールなど、学習規律の定着を図り、落ち着いて学習に取り組める「環境づくり（かつお・ふでばこ）」に配慮する。</p> <p><input type="checkbox"/> 学習時間を適切に時間配分するなど、1時間の中で「振り返り」まで効果的に指導できるよう「タイムマネジメント」に留意する。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもができる部分は任せるなど、教師が出すぎないように留意する。</p> <p><input type="checkbox"/> 1時間の学習内容や子ども達の考えの共通点、相違点、関連などが一目でわかるように、「意図的・計画的な板書」を心がける。</p> <p><input type="checkbox"/> 授業の中で、何を、どのような順番で行うのか、1時間の学習活動の見通しが具体的にわかるよう、「学習の流れ」を黒板に示すなどの配慮をする。</p> <p><input type="checkbox"/> 授業の予習や復習を宿題にする（視点③）など、「授業と家庭学習のつながり」を意識した授業づくりを行う。</p>			
学習過程	カード		
問題把握 問題 課題把握 めあて		<p><問題把握></p> <p><input type="checkbox"/> 教科書や資料等から子どもと本時の課題をつかむ</p> <p><課題をもとに、本時のめあてを立てる></p> <p><input type="checkbox"/> 授業の中で「めあて」を板書する。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもにとって理解できる内容の「めあて」を立てる。</p> <p><input type="checkbox"/> 1時間の授業で何ができるようにしなければよいのか、何をどのように考えればよいのかなど、子どもが具体的にイメージできる「めあて」を立てる。</p>	
見通しをもつ 見通し 内容・方法・学習の場など		<p><めあての解決のための見通しをもたせる></p> <p><input type="checkbox"/> 既習事項と結びつけて考える。</p> <p><input type="checkbox"/> 解決に必要な情報や方法を確認する。</p> <p><input type="checkbox"/> 手順を確かめる。</p> <p><input type="checkbox"/> 流れを確かめる。</p>	視点③
自力解決 根拠を明らかにして表現 考える 考えたこと表現		<p><見通しを生かして、自分の考えをもつ></p> <p><input type="checkbox"/> 自分の考えをもつ場を設定する。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な条件や具体的な書き方を示した上で、自分の考えをもつ場を設定する。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分がまとめたものが「めあて」に沿った内容になっているかなどを、子どもが見直しできるように手立てをとっている。</p> <p>※子どもが自分の考えを、根拠や理由を示しながら、記述したり、発言したりするなどして表現できるようにする（ICT利活用）</p> <p><input type="checkbox"/> 授業後は子どもが書いたものにコメントを記すなどして、先生による評価を子どもに返す。</p>	視点①
めあての達成につながる 協働的な学び あくしゅタイム 考えの交流の場 2人で グループで みんなて		<p><他者の考えの説明を、自分の考えとの共通点・相違点・よさなどを考えながら聞き、伝え合い、自分の考えに生かす></p> <p>「少人数」</p> <p><input type="checkbox"/> 必要に応じて、少人数で「あくしゅタイム」を取り入れている。</p> <p><input type="checkbox"/> 話し合いの目的や進め方、時間などを示す。</p> <p><input type="checkbox"/> 話し合う内容を魅力的なものにし、話し合う必然性をもたせるなど、子どもが意欲的に「話し合う活動」を進めることができるようにする。</p> <p>（ICT利活用）</p> <p>「学級全体」</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが考えを発表し、その内容を学級全体で共有する。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもと子どもの考えをつなぎ、子ども同士の交流を通して「話し合う活動」を進めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが出した考えを、共通性や関連性などの観点で整理し、みんなに示している。</p> <p>※あくしゅタイム一覧表 あくしゅタイム教師の役割を参照</p>	視点②
学びをまとめ 振り返る まとめ ふりかえり		<p><協働的な学びの結果を共有し、課題の解決とめあてに対するまとめをする></p> <p>「まとめ」</p> <p><input type="checkbox"/> 学習の「まとめ」を板書する。</p> <p><input type="checkbox"/> 「めあて」に対応した「まとめ」を板書する。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発言を取り上げながら「まとめ」を行うことやキーワード・文の書き出しなどを示して、子どもが「まとめ」を行うことができるようにしている。</p> <p>「振り返り」</p> <p><input type="checkbox"/> 授業の最後に、子どもが「振り返り」を行うようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 「振り返り」を行う前に、学習内容の理解や学習活動への取り組み方など、何について振り返ればよいかを、子どもに示す。</p> <p><input type="checkbox"/> 「めあて」に沿った振り返りの視点や判断する基準などを明確に示した上で、子どもが「振り返り」を行うことができるようにする。</p> <p>（本時の振り返りの視点）</p> <p><input type="radio"/> どのように学んだか</p> <p><input type="radio"/> 何ができるようになったか（自分の変化や成長について）</p> <p><input type="radio"/> 今後はどうつなげるか（生活や経験、他教科と結び付けて）</p>	視点③

(3) 授業参観週間の設定

9月8日～10月10日、10月28日)～11月28日に授業参観週間を設定し、前期・後期課程の職員が1人1授業を公開した。授業者は、事前に指導略案を作成し、授業づくりの視点に沿って相互に授業を参観した。また、各教科部会で代表者を立て、代表授業の指導案作成や授業参観を行った。

相互参観授業指導略案			
日時	9月9日(火)		場所 9年1組教室
授業者	武村昌憲		学年・組 9年1組
教科	保健体育科	単元名 (題材)	健康な生活と病気の予防
単元(題材)の目標	性感染症の疾病概念や感染経路について理解できるようにする。また、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解できるようにする。		
本時のねらい	性感染症を引き起こす要因を理解し、予防の仕方を考えることができるようにする。		
	めあて	性感染症とはどんな病気であり、どうすれば予防できるのか理解しよう。	
	自分の考えをもつための手立て (～の場面において～するの形で記入)	導入の場面において水酸化ナトリウム水溶液とフェノールフタレイン溶液を用いた実験を行うことで、不特定多数との性行為は性感染症に感染するリスクがあるということ、感染源の特定が困難であることについて考えることを通して、性的接触による性感染症の広がり方を実感することができるようにする。	
	まとめ	性感染症とは、性的接触によって感染する病気であり、感染していることに気づきにくい。性的接触をしないこと、コンドームを使用することが有効な予防法である。	
概ね満足できる児童生徒の姿(評価規準)	性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについてを理解したことを言ったり、書いたりしている。		
<自分の考えをもつための手立てについて>		参観者()	
<その他>			

【授業参観シート】

本時の学習（1／2）

- (1) 目標 洗濯ばさみの形や色の面白さを感じ取り、工夫しながら楽しく活動することができる。
 (2) 展開

過程	学習活動	○教師の働きかけ ◆評価（四角囲み） ●つまづいている子への手立て ※ICTの活用
導入	1 隠しておいた洗濯ばさみを見つける。 2 本時の学習のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">せんたくばさみをならべたりつなげたりしてたのしもう！</div>	○洗濯ばさみを複数のダンボールなどに入れ室内に隠して置き、児童の興味や関心を高める。
展開	3 活動の見通しをもつ。 洗濯ばさみを触ってみる。 4 みんなで考えを出し合い、話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">あくしゅタイム</div>	○並べたりつないだりしながら、洗濯ばさみの形や色などに気付かせ価値つけていくようにする。 ●洗濯ばさみの形や色を生かして表現している様子を捉えて、共感的に声をかけていく。
	5 ずこうたいそうをする。 6 洗濯ばさみの形や色を生かして並べたり積んだりする活動を広げる。	○ずこうたいそうをして、視点をかえたり、イメージをふくらませたりできるようにする。 ○思うようにならない時は、表現し直してよいことを伝え何度も試すことができる雰囲気をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">◆いろいろな形や色の洗濯ばさみを効果的に使って、長く並べたり立体的につなげたりして、工夫しながら、楽しんで表現している。 <p style="text-align: center;">【思考・判断・表現】</p>A: 自分と友達がつくった形や色の面白さを感じ、楽しんで活動している。 B: 友達の並べ方やつなげ方を見て面白さを感じることができている。 ●自分の思いを表現できるように友達の並べ方やつな</div>
まとめ	7 今日の活動のふり返しをする。	※自分の作品を学習用端末で写真を撮り、気に入っているところに印をつけさせる。 ○洗濯ばさみのつなぎ方や並べ方をどのように工夫したかを伝え合わせる。お互いの表現を楽しみ、形や色の工夫や面白さを感じることができるようにする。

本時の学習（3／5）

(1) 目標 筆者の考えと事例との関係に注意して、要旨をまとめることができる。

【思考・判断・表現】

(2) 展開

過程	学 習 活 動	○教師の働きかけと◆評価 (四角囲み) ●つまづいている子への手立て
導 入	1 本時の学習のめあてを確かめる。 筆者の考えと三つの事例の関係に着目して、要旨をまとめよう。	○学習計画をもとに本時の目当てを考えさせる。
展 開	2 各段落の要点を押さえる。 3 「序論」「本論」「結論」の役割について考える。 4 筆者の考えの中心や、それを支える事例との関係を捉える。	○各段落の要点を押さえさせる。前時にまとめた構成と内容を整理した表を音読するよう助言する。 ○「序論」と「結論」部分を比較させ、共通点を見つけることで、それぞれの役割に気付くことができるようにする。 ○筆者が何を伝えるために三つの事例を挙げているのかを考えさせることで、筆者の考えの中心を捉えることができるようにする。 ○要旨を捉えるために、「結論」になる⑩段落のまとめと、⑯段落で述べられている筆者の考えの中心とのつながりに目を向けるように伝える。
	5 筆者の考えと事例との関係に注意して、要旨をまとめる。 6 まとめた要旨を読みあう。	○学習用端末などで要旨をまとめ、二百字程度に整理するように伝える。 ○構成と内容を整理した表や板書、結論部分に着目しながら書くように助言する。 ○筆者の考えの中心と三つの事例が適切にまとめられているかという視点で読みあうように伝える。 ◆文章全体の構成を捉えて、要旨をまとめることができる。(学習用端末など)【思考・判断・表現】 A：教材文の言葉を自分の言葉におきかえて、要旨を二百字程度でまとめている。 B：要旨を二百字程度でまとめている。 ● 文章構成図を文章化したものを与え、要旨をまとめられるようにする。
ま と め	7 まとめとふりかえりをする。	○要旨にはどのようなことを書けばよいかについてまとめさせ、本時の振り返りを書かせる。 (例) 要旨には、筆者の考えや、内容の中心を見つけて書くとよい。事例や結論が手がかりになる。

本時の学習 1次関数の利用 (1/4)

- (1) 目標 身の回りにある関数を、1次関数を使って課題解決することができる。
 (2) 展開

過程	学 習 活 動	○教師の働きかけと◆評価 (四角囲み) ●つまづいている子への手立て、※ICTの活用
導 入	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">身の回りにある関数を、1次関数を用いて課題解決することができる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> (問1) 体育大会で団対抗リレーを行いました。赤団のアンカーは秒速5秒で、青団のアンカーは秒速8秒で走ります。2つの団とも x 秒後に進んだ距離を y mとします。今、赤団が60m進んだところで青団がバトンをもらいました。アンカーは200m走ります。また、2つの団ともゴールまでの速さは変わらないものとします。 団対抗リレーで先にゴールするのは赤団ですか、青団ですか。 </div>	※タブレットを用いて1次関数の傾きや切片の確認をする。
展 開	3 解決の見通しをもち自力解決をする。 4 全体で意見を出し合う。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 5 次の課題に対して、グループで課題解決に向かう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">あくしゅタイム</div> </div>	●全く考えが出てこない生徒は、表を全部埋めてしまうことで答えを出せることを助言する。 ○表だけでなく、グラフを用いることで、課題が解決できることを説明する。 ●問1の考え方を利用すると何種類か解き方があることを助言する。 ◆2つのグラフをもとに赤団のスタート地点を求めている。 A：赤団のグラフを平行移動させて、グラフから切片(赤団のスタートの地点)を求めている。 B：赤団と青団のグラフの式から $x=25$ 、 $y=200$ を代入して赤団のスタート地点を求めている。 C：表を用いて赤団のスタート地点を求めている。 →グラフをもとに考えるように助言する
ま と め	6 まとめとふりかえりをする	○本時のまとめを行うとともに、私たちの身の回りには多くの関数があることを伝え、課題解決に役立たせることを話す。

10 研究の成果と課題

(1) 根拠をもとに自分の考えをもつ場を設定した授業づくりについて

- 教科ごとに、根拠とは何かを考え授業を行うことができた。
- 児童生徒が自分の考えをもつことができるように一人学びの時間を確保するなど研究の視点を意識して授業を行うことができた。
- 相互授業参観を通して、職員それぞれが自分の課題に気付くことができた。
- 根拠をもとに自分の考えをもつということに対して、職員間で認識の違いがあった。単なる理由や考えの説明でなく、その課題や題材に対しての根拠とは何かをさらに考える必要がある。
- 1年次の研究を経て2年次の研究へ進んだが、職員の入れ替わりもあり、1年次の成果と課題が十分に共有できず、共通理解や徹底の点で課題が見られた。
- 校内研究の時間だけでは、授業について十分に話し合う時間がとれず、業務時間外に授業の準備や話し合いをすることが多かった。

(2) 教科ごとの成果と課題

成果	課題
<p>国語科：児童と共に学習課題や単元計画を立てることで、めあてが児童主体となり、目的意識をもって学習する姿が見られた。既知と未知をつなぐ授業づくりが機能し、学びの意味が明確になった。</p>	<p>児童主体の計画づくりに時間がかかるため効率的な進め方が必要。既習事項を根拠にする力が弱い児童へのサポートや、既知と未知の接続を深める発問の工夫が課題。</p>
<p>数学科：一次関数の授業で、日常生活にある関数を利用して問題を解決する課題設定により、実用的な思考が促された。指定した班で話し合うことで多様な意見に触れる機会が増えた。</p>	<p>一部の子どもが決まった仲間としか共有しない傾向があり、さらに多様な交流を促す工夫が必要。</p>
<p>音楽科：「どんな音が聴こえた?」「どのように変わった?」などの発問で音楽の要素に着目する姿が見られた。要素カードを用いることで鑑賞の視点が明確になった。</p>	<p>発問やカードに頼りすぎると子どもが自分の言葉で表現する力が育ちにくい可能性がある。感情やイメージを結びつける活動の工夫が課題。</p>
<p>理科：具体物操作→抽象的推論→論理的思考の流れを意識し、スモールステップで班ごとの結果確認を行ったことで理解が深まった。</p>	<p>予想を立てる活動は有効な場合と妨害する場合があります、場面に応じた工夫が必要。</p>
<p>保健体育科(保健分野)：性感染症の授業で水溶液実験を導入し、感染リスクを体験的に理解させ、自分事として捉える姿が見られた。</p>	<p>体験的理解をさらに論理的思考につなげるための振り返りの工夫が必要。</p>

<p>体育分野：タブレットで動画を活用し、感覚的な振り返りから客観的な課題発見へと発展。</p>	<p>動画を見た後の改善策を自分で立てる力を育てる必要がある。</p>
<p>英語科：生徒が知っているか知らないかぎりぎりの話題を設定し、グループでアイデアを出し合いながら英文づくりをすることで、主体的な発話と協働的な学びが両立した。</p>	<p>話題設定が難しすぎると発話が止まるため、難易度の調整が必要。グループ活動で一部の生徒が消極的になる場合があり、役割分担や発言機会の保障が課題。</p>
<p>社会科：公民分野で「多久市の人口を増やすには？」という課題を設定し、データを根拠に意見を述べさせることで、論理的思考と地域理解が深まった。</p>	<p>データの読み取りに時間がかかる生徒もあり、サポートの工夫が必要。意見が表面的にならないよう複数の視点を考えさせる仕掛けが課題。</p>